和歌打聞

和哥用書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いるやとりかはせきハ遊うて紙
をくくまとの日大納言殿ゟ
内々いとゝのうわりて醍醐花見（冬照卿）ゟ我方へ（直元公）
参ル所ゟ〻豆腐ゟ我々ゟ〻出
されきまて醍醐之ひ
ゟ〻くわしやもの出ゟ元れ事ゟ〻ひ十ゟ〻ひ
へさふ何ゟ〻ゟれて
ゟ〻ゟ〻ゟ〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の咲[illegible]もわるといはんの
[illegible]さ[illegible]も成
[illegible]の松[illegible]ひしを[illegible]ほる
わ[illegible]の[illegible]る事[illegible]
[illegible]のは[illegible]の[illegible]の松[illegible]
[illegible]時の[illegible]仲の[illegible]を[illegible]へる
[illegible]れ[illegible]と云[illegible]た
[illegible]

道晃法親王白河の[illegible]
[illegible]き縁の[illegible]
[illegible]

[illegible]日新の[illegible]
[illegible]たれ[illegible]
[illegible]時[illegible]
[illegible]

心空義淚の[illegible]のふけ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元文のころ　閑院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一陳梅改元の節会の酒肴と定家卿の記元年号

一殿上人の中に玉をつくふ

一近宮北尺とおりあを近衛

一清涼殿の内の物と志ゐらに出つ

一京極殿ふ

一院のことを院のことと

一その前に

一月の光の中に玉をつくふ

一百姫の中に姫さまのはと

一とかさうにつくるとて志ゐらく物ゐ

入られ給ふ事を聞て其ころ所ふこの頃
のものしりなる
用度の人々茶の湯に数寄を移させ給ひ
し茶碗を久さ弟子なく所ふく
えう一の人こゝ茶を始めきり新仮名の八道
人物こゝ茶を始めきり
て入道おもの茶碗
くいまと人まりの人のりくこゝ
うさまもきれを始りもり八道茶碗
てかうらんのろさつ
の茶碗
りこゝいふうを始りき

ゐもとふうちうこゝりてもとこゝ
ゐもしのひつまとくこゝ
井まれ茶碗
のまく物もむりら
そそ侍ものの
のもの物をこゝ
くこゝ
物こゝ
同のこゝ
のこゝ
始りこゝ
の風流とこの
のこゝ
始りこゝ
の道
の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこされたこのこと法印定家ものも
はしたものゝ　やうゝ　先ゝ　そへ　同　この
頃ゝ　はこ　はこ　清撰にして　先てきゝ　ふぢの
事ゝ　とゝ　とゝ　くゝ　こと　中ゝ　人ものゝ　てゝ　ゝ　人ゝ
そゝ　ゝ　こゝ　ゝ　ゝ　れ　て

同大納言　春衛

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　殿ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

九條の殿の大夫　尚実公

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

物ゝ　を　法ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

資実

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

時成卿　永仁元年

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

つうさ殿と人の申あつまりて酒もりいとなむ
とゝ少しいとうこれをいとこゝろ者
いかゝ人のうれいに同しこゝろ
中納言のみこのさきやうにいとくこの糸し
給へるゝゝさせたまふ物をまふ門松をも
百歳をこゝろ長のこゝろ先の宝物と思ひこゝせ給
くひさしきものとおもひのこゝろ思くしいぬくるを
れいしきものとおもひのこゝりよせこゝ給ひる
民部卿殿の冷泉大納言の村
志をこゝろ松をこゝろのいしのこゝ
同無ふこゝゝいまこゝ
とゝ下れいもいこゝとうこゝ奥せこゝ給ひる

元和のころ　伝ありて給へる八十ゝ歌せかえ
ゝ申ゝ申ふゝ春のこゝ先よりも給ひる
山春ゝ先ゝおゝるゝ光もれし
秋ゝふゝのちちさを
申ゝ申ゝ明給へるゝ
これ春の色をゝ世ゝ
いのちゝ思きりもぬ
さ松のんゝかゝへ　こゝゝふゝゝへ
色ゝゝもゝ中ゝ　中院の内府
おゝゝゝいくゝ　ゝ河のゝちふ
うきゝ世ゝ　ゝ
院のゝへして給ひりめとて天下百民のゝき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中院右大臣通村公元文四年薨去

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のすれ筆ぢいさもひ錄をうもうてこぢうを和
らてうてうもう

[illegible]軍家ようり人々ようの源氏ようの二巻つ書く
給うてうて内新家を給ひてうらうを賞
巻の六紙をハ亀の[illegible]
うをうて給うてこわさうる大ようを玉きく
あてに法々れうれうるうてうてうてうてうえ
けるようのかをもうゆをもてのを中う
おうきうて物うてうう

以法もの[illegible]ふう法もきも内の[illegible]の[illegible]の
中納言冷泉[illegible]
内新樹をうて吟じて法
の仏をもハ人々の[illegible]

[illegible]をうをうをおうて内の[illegible]
[illegible]を内を叩ハおの[illegible]
[illegible]を法をこの[illegible]
[illegible]をもハ[illegible]内新をもふハ
[illegible]をうもをハ[illegible]の法うを中納言
[illegible]こひ[illegible]やて[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]内の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぼたんこそめる三把の水　ぼたん
まとゐ給の御法はなをもとらるゝ　如月
元とのうらしま

さみだれの　高ふかめる部ひ　桃

四月中旬遠方より時光院の大納言（寛文十三年死）
飯とり給ふ　執筆ふくさ　いきき
ゆりりうと　家のみわ　少　和ふのまくらかあれ
屋うみあけ　しおさ　くの連歌の　執筆つうあつ
ふくさやうこそいまるいたを　とかされ
しまし　ふしうしらと　ゆうる　あまひ　東
筆ハ御の　儀同　自　ちごあひの時　四　ふ
ふ　海ふ

東ハ　ふ
いつも　儀ふの　吉　けふ　ふ　ふ　ふ　ふ
このふ　ふ
てめ　ふ
と御　ふ
の　ふ
ま　ふ
ふ　ふ

民部卿ふ　ふ
ふ　ふ
ふこのふ　ふ
ふ　ふ
ふ　ふ

御即位の日大施こうあれあり雷の名先帝の
ひさきのを源氏今上の御ちをん元年十一と
ゆとして
元和の時沉のいとくすりの壁をくの壁をくの
ありるうてのの壁ありうさき雷ありうれたき
法せ給てうの人くう法ゆをうり
道長法のおとこと雷のいとふ法の事
この事せ給くあきあるあ異せさをめきれた
御帝て後しあるくつとりうさを元禄て
以ていうの以と雷ありてかういうるうてを
ぬしてすくいひとりをうれを法れさりる
四人くの京極殿門の四人一ていうせうまくる

紙をあるくつとりを法りゆいいうさ
あるくしてをりるを宣旨（宣長卿元禄十三年筆）の法りるを実
門の法ハあふくふくしてのもしをゆふ妙
あるくかくてあるを中くかうさのあるたち
いくやくもてあるて皆とりてをくをを
ふ法妙とうあるとこくをうをきをうさく
のうをを紙をををくくをもを実
ありくて
紙法は御てかうを宗建いうをあふ
人あくくをくいくをんあるをうを勢法て
をくくくさう事法
殿の妙のさうくはくくし妙の妙せさ勢

[illegible]の奉仕する[illegible]
き中[illegible]その中小河内[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]小面のこと[illegible]
小面と[illegible]小面を[illegible]
[illegible]沖潮の[illegible]
中間[illegible]
[illegible]沖遊の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

桃園流

[illegible]
[illegible]
寛延の[illegible]
この[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

和歌所にて寄雪述懐

ふるとしのつもるにつけてあはれとは
いかばかりなるなげきなるらむ

ふるさとの雪にうもれてふるまひの
あとなきものとなりにけるかな

ゆきもとけ春のかすみのたちそめて
なにはのうらにかへるなみかな

ふるとしのつもるにつけてあはれとは
いかばかりなるなげきなるらむ

ふるさとの雪にうもれてふるまひの
あとなきものとなりにけるかな

ゆきもとけ春のかすみのたちそめて
なにはのうらにかへるなみかな

大々北邊成允れらきなり

那佗乃葛根